

下鴨少年補導委員会  
松ヶ崎支部

発行責任者  
支部長 北川 憲一

# 松ヶ崎少年補導だより

## 一年間を振り返って

平成二十六年度  
松ヶ崎小学校 P T A 会長 三 木 啓 司

早いもので、P T A 会長の大役をお受けして一年が過ぎようとしています。この一年間、少年補導委員会様をはじめ、地域

団体の皆様には、多大なるご協力をいただき、ありがとうございます。この場をお借りしてあらためて御礼申し上げます。飯盒炊さんや夏祭り、区民運動会や子どもフェスティバルなど。考えてみると松ヶ崎小学校の主な行事は地域の皆様のご協力で成り立っているようなものだとあらためて感じました。また、これらの行事だけでなく、日頃の見守り活動などでもご協力いただき本当にありがとうございます。

先日、京都市 P T A 連絡協議会の研修会があり、京都市水族館の飼育員の方と、元小学校校長で顧問として水族館の教育普及に携わっておられる方による、

「身近ないのち〜イルカの飼育を通して見えてくること〜」という講演会に参加しました。講演はとても興味深く、イルカの飼育も子育てと共通する点が多く、全力で取り組まなければならぬこと、信頼関係がなければついてきてくれないことなどを話されました。講演の後の質疑で、ある保護者の方から「近年子どもたちの頭が良くなり、保護者の注意を聞かなかつたり、説明しにくいような常識的な事でも理由を問われたりして保護者として子供に教えるにくくなっているが……」という質問に対して講演者の方が答える中で、

「理屈で説明できないことでも、伝わるまで言い続けること。」さらに、「保護者だけでなく、周囲の大人たちも同じことを言い続けてあげること」が重要。

とおっしゃっていました。たくさんの方に同じ様に注意されると、「そういうものなんだ」と思うようになることでした。その前提となるのが、保護者と地域の人が同じことを同じように注意することだそうです。私もその通りだと感じました。いくら保護者や周囲の大人が子供たちの生活を見守り、声掛けをしていても、それぞれの言うことが異なっていると子どもたちは混乱してしまうと思います。

幸い、松ヶ崎は地域の皆様「地域の子どもは地域で守る」

という高い意識で温かく子どもたちを見守って下さっており、色々な行事で保護者と接する機会もあることから、同じ考え方を持つことができていると思っています。

これからも、子どもたちのため、平和で住みやすい松ヶ崎のさらなる発展のために、我々保護者と地域の皆様がこれまで以上に連携を深めていければと考えております。引き続きご指導の程、よろしく申し上げます。一年間本当にありがとうございます。



正田町 S.S. さん

さしのべる 手のぬくもりを どの子にも